

平成30年度 第3回 池田市総合教育会議 議事録

日 時：平成30年2月15日（金）午後4時00分～午後4時30分

会 場：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：倉田市長、田渕教育長、山岸委員、河野委員、小林委員、木村委員

＜事務局＞

18人

傍聴者：3人

1. 開会の挨拶

＜市 長＞

- ・いよいよ年度末も近づいてきて、昔から2月は逃げるという言い方があるが、私も昔財政課で仕事をしている時、2月が28日までは辛い、せめて30日まであったらと言いながら仕事をしていたことを思い出す。特に今年は統一地方選挙の年ですから、いわゆる3月定例議会と称するが、2月の25日から始まるということで予算編成も急ピッチで整えたところ。
- ・今日は平成31年度の教育予算の中身について、改めてご報告を申し上げるとともに、給食センターの建設費用は今なお膠着状態であるので、その経過もあわせて申し上げたいと思っている。短い時間ではあるが、どうぞ慎重にご議論いただきますようよろしくお願い申し上げます。

2. 議事

・平成31年度教育日本一予算について

○事務局から説明。

- ・まず、英語専科教員配置事業について、これは教育委員のみなさまからご提案をいただいたもので、小学校に英語専科教員を配置する事業となっている。今年度は小学校の5校に配置し、来年度は残り5校にも拡充を行い、全10校に配置する。小学校での英語教育の要として位置付け、小学校英語を強力に推進したいと考えている。活動内容は小学1年生から6年生までの英語の全ての授業にかかわり、クラス単位や外国人指導助手と共に楽しくわかり易い英語の授業を推進していく。また英語専科教員はそれぞれの小学校だけに留まることなく、月1回以上定期的に全員が集まる連絡会を開催し、指導法の研究や情報交換だけでなく、今後導入される数値による評価の検討、あるいは電子黒板を活用したデジタル教材を使っの指導法の工夫改善に向けて、実践的な研究やそれぞれの公開授業を行っている。他の市町村では配置の少ない英語専科教員を充実させ、平成31年度からの小学校英語の授業時数の増加を見据え、より効果的な小学校英語教育の充実に関心を持って取り組んでまいりたいと考えている。
- ・ICT教育推進事業である教員用タブレットの整備については、国が教育のICT化を積極的に進めている中、昨年度から2年を掛け、大型の62型の電子黒板を学校の普通教室並びに特別教室に設置した。教員は電子黒板を活用しながらわかり易い授業作りに努めているが、更なる授業の工夫改善の手立てとして、来年度小・中学校・義務教育学校の教員全員にタブ

レット型端末、i P a d m i n iを整備する予定。教員が一人1台を活用することにより、教材研究の質が高まることや、全ての授業での活用が期待できる。タブレット端末活用のメリットとしては、電子黒板で画像や動画等の資料を提示することで、視覚的な理解を深めていくことができる。実験や実技の様子を倍速やスローで再生したり、上下の画面で比べたりできる。目的に応じた学びの実現が可能となる。文字の拡大機能や文字の音声読みあげ機能の充実により支援教育への有効な活用も期待しているところ。1学期中に導入し夏季休業中の研修を実施する予定。

- 教育日本一検証事業については、平成28年度の教育日本一事業の展開から今年度で3年目を終えようとしており、新年度で4年目に入る。教育日本一をより推進するためにこれまでの取組をしっかりと振り返り、検証事業で教育日本一の事業を点検評価、そして検証を行う会議を設置する。会議の中で具体的な事業の継続、拡充、縮小、見直し等も含め全ての事業の検証を行う。検証会議の構成員は、学識先生方、市のPTA協議会の代表、市立小中学校の管理職を委員として年4回程度開催する予定。客観的な検証可能のデータ等の成果指標の収集の必要があり、まずは全国学力学習状況調査、全国体力運動能力運動習慣等調査、英語検定GTEC等の結果を有効に活用する。さらに学校園での取組の現状把握のために保護者や児童等へのアンケート調査、学校園の教職員等へのヒアリングも行う。その結果に基づき検証会議の委員に事業の成果、効果の有無、今後の事業のあり方について審査をいただき、結果を踏まえてこれまで以上に効果のある取組を展開していきたい。
- 特色づくり推進事業の体力向上推進事業と音楽教育推進事業について、まず体力向上推進事業は、今年度の全国体力運動能力調査の池田市の結果は、中学2年の女子には顕著な改善効果がみられたが、小学5年の男女は全国平均に及ばない記録が多い結果となっている。そこで来年度は体力向上推進事業として、予算をいただき4点の具体的な取組を進める。1つ目は、経験の浅い教員が増える中で、教員の体力指導力を向上させるための専門的な指導者を派遣して教員が指導法を学ぶ機会を作っていく。2つ目は、小学校の希望者を対象に運動の基本となる鉄棒、マット運動等の体幹を鍛えるような体育教室を休日に開催する。3つ目は、体力向上研究校として、小学校3校を指定し、実践的な研究を進め、他の学校に共有する公開授業を実施する。4つ目は、パラリンピックキャラバン、車椅子バスケット等の団体を招へいし、さまざまな気づきを通じて、障がい者理解教育を推進する。
- 音楽教育推進事業は、従前から音楽教育には力を注いできたが、全小学校に吹奏楽部、金管クラブがあり、そこに専門的な指導者を派遣したり、連合音楽会や子どもフェスティバル等の音楽行事の開催をしたきた。それに加え、来年度は3点の具体的な取組を進める。1つ目は、希望者を対象に市の吹奏楽団や音楽連盟と連携し、古典音楽を始めさまざまな音楽や楽器に触れ合える音楽教室、ミニコンサートを開催する。2つ目は、大阪音楽大学へ訪問し、ミュージカルの鑑賞や楽器演奏体験のできる音楽ツアーを開催する。3つ目は、市内の高等学校等と連携し、小中高連携のジョイントコンサート等の音楽交流を行う。以上の通り、体力の向上や音楽教育を充実させることで、子どもの学力だけではなく、健やかなからだと豊かな心の育成に取り組む。
- 新図書館オープンに向けての取組として、子育て支援、青少年の読書支援、課題解決支援の3つに重点をおいて取り組む。子育て支援として、今年度の補正予算において、スペースの確保、絵本や子ども向け図書の実現が実現し、来年度は青少年読書支援として、中高生読書

活動支援として中高生に人気のある作家の講演会を実施する。さらに課題解決支援として、市民の課題解決のための取組として、書庫資料で充当できない情報を補い、課題環境に役立てるために館内に整備したネットワーク環境を用い、最新の電子情報を提供する所有データベースの追加導入を実施したいと考えている。

<市長>

- ・図書館については図面が出ており、ワンフロアの4,000平米の中で1,500平米を図書館が占有する。ハード、ソフト、内装費用を含めて概ね2億4千万円の費用をかけて現在整備中。この2億4千万円は国の最適化債の対象である。現在の本館のスペース、床面積、公民館にある図書コーナーを合わせると2,000平米を越えるが、本館は共用スペースがたくさんあり、実際の図書館機能としては1,500平米でほぼ同じであるが、全体の面積が減り、国のダウンサイジングによるハード助成として、効率的な起債を活用して予算を捻出している。同フロアの空いているところは医療のコーナーとして、小児科、眼科、歯科、産科、調剤薬局などが入り、同じフロアには、喫茶店、本屋さんなどが入ると聞いている。特に児童書に特色をもたすため、城南にあるトビアス・ヤコブセンというヤコブセンのアンテナショップから子ども用の家具が入る予定。ヤコブセンの監修になればそれを目当てに来る人もいると考えている。さらに申し上げると、2階はソフトバンクのプログラミングが出来るような少し広めの店舗が出来るようである。あとは決まっていないが、鉢塚にある大型繊維屋さんも現場をみている。1階はマツモトキヨシ等が入ると聞いている。今までとは違った店舗構成になり、その上で集客力のある図書館が3階に入るので期待をされているところ。
- ・英語については、大学入試で新しくいわゆる読み、書き、聞く、話すの民間の検定の評価が点数に入る大学もある。入るか、入らないか大学によって違うが、そういった意味ではGTECを使いながらそれなりの成果をあげている。
- ・次に、池田市長からの「報告とお願い」の手紙についてご報告する。さきほど申し上げた通り、平成31年度当初予算で給食センターの建設費は計上されていない。保護者の方も心配されていると思うので、中学校1年、2年生の在校生全員に対して手紙を出すことにしたので、手紙の内容を申し上げる。

『今年の冬は特に寒暖の差が厳しく、インフルエンザが流行し、皆さんも大変だったことでしょうね。今回は中学校給食の件で「お願いします。」

中学校で今のようなデリバリー（弁当方式）による給食が平成26年4月から始まって、まもなく5年が経過します。導入当時は、皆さんからも「冷たい」、「まずい」などの声も寄せられ、皆さんの期待に応えるため教育委員会とともに工夫や改善に努めてきました。

一方で、今春から新たな学校給食センターで作った給食を食べていただけるように計画し、東山町で土地の買収も行って準備していたのですが、残念ながら国の有利な補助制度を活用することができず、新たな学校給食センターからの配送は少なくとも来年のゴールデンウィーク以後になります。私は今、国の制度のすき間とにらめっこしています。この国の制度というのは、国土強靱化計画、3年間短期で総理が警鐘されている制度ですが、残念ながらその制度の中に給食センターが入っていません。それで政治の力でそのすき間から暖かい心がわいてくることを期待しているからですが、皆さんに期待していただいていた学校給食センターの工事の着手が大幅に遅れてしまったことを報告するとともに、申し訳ない気持ち

でいっぱいです。そこでお願いします。同じデリバリー方式ではありますが、少しでもおいしく、食べやすい給食を提供させていただくうえで、さらに工夫、改善するため、皆さんのご意見を聞かせてください。そのために、別紙のアンケート調査にご協力いただくよう、お願いします。なお、このアンケートは速やかに集計し、皆さんの代表者と懇談会を開催し、ご意見をこの春以後の給食に活かしたいと考えていますので、ご協力をお願いします。』

という内容です。実は率直に市長からの「お詫びとお願い」と当初書かせていただいていたが、校長会の先生からお詫びはいらないと意見をいただいた。中学生は給食が来ているのでそれほど違和感を感じていないし、保護者からもお叱りの声も聞こえない、あえて言えば給食センターが立ち退けば、池田小学校の皆さんはグラウンドが広がるのでその期待感があるくらいですね、と言われ、市長からの「ご報告とお願い」にさせていただいた。今、教育委員会にお願いしているのは、議会への説明の後、子どもたちに配らせていただいて、3月はじめぐらいに教育長と私とで各校3名15人の代表生徒の方にご希望を伺いたい。一つ改善を考えているのは食缶方式で温かいお櫃に入ったご飯を届けること。今日も給食業者に来ていただいて、保温というのは冷温もでき、夏は冷たい冷麺も出せるようなので、検討しましょうということを話した。子どもたちの希望を聞いていきたいと考えている。それではまとめて委員の先生方のお話をお伺いする。

<委員>

- ・前回と重複した意見になるが、英語教育につきましては、私共の提案で、英語専科教員配置事業というのは昨年、今年と2年にかけて充実してきたということで、期待をしている。外国の学生さんと話しているとアジアの学生さんは向上心が強くて、英語でもしっかりプレゼンができるというのを目の当たりにして、日本というのはまだ弱いと感じる。個人的な話になるが、私の子どもたちも食わず嫌いなところがあったが、ひとたび外国人と接する機会があると急に興味が出てくるという経験もある。そういうことから今後も充実をお願いしたいところ。これでひと段落完成形になると思うが、今後の展開も期待したい。
- ・ICTのところの一つ、今後絶対にタブレットの配置等は必要になってくると思う。私も昔紙を配ってプレゼンすることが多かったが、パソコンやタブレットを使う形式に変わって来ている。ここでのお願いは情報セキュリティ、外部からの侵入によって大事な情報が抜かれるということがあるので、いろいろ対策をしていただきたい。他で気になっているのは、どうしても説明しやすいということでネットの画像等をコピーして、ポンチ絵等で使うことがある。話す分には良いが、ひとたびオープンになり、著作権等に引っかかると大きな問題になり、損害賠償に問われることもある。この二点をご留意いただきながら進めていただきたい。
- ・検証事業も非常に期待している。我々も提案をしている立場として、知りたいこと。池田市の平均的なことは恐らく出ると思うが、学校ごとの差があるかもしれないので、細かく出来るかどうか分からないが、学校別の差があれば教えてほしい。
- ・体力向上の評価結果、確かに変化があるが、有意な差なのか、どうなのか検証しながら対策に反映していただきたい。
- ・図書館は期待するところで、今すぐではないが将来的には公民館、商工会議所等と連携した文化ゾーンになれば面白いと思う。

<委員>

- ・さらに充実した内容になっていると思います、嬉しく思っている。英語教育に関しましては、専科教員が全校配置ということで凄く期待している。中でもネイティブとの会話が大事だと思っている。平成29年度からの授業ですべての生徒ができる、オンライン英会話トレーニングが凄く大切だと思うので、今後回数を増やしていく等も検討してほしい。生徒たちの話を聞いていても、1回目より2回目になると慣れてきて、充実してくると聞いている。回数がある方が効果を得られる。また、その都度担当者の違いもあるようなので、いろいろな担当者とお会いすることも効果があると考えている。単に回数を増やしてほしいということは、他にも課題がある中で、難しいところもあると思うが、今後検討していただきたい。
- ・幼児保育のところでは、無償化もあり目を向けていくところであると思う。3年保育をめざして、3歳児のプレの保育の拡充は、小学校との連携の良さを生かして、スムーズな接続、橋渡しをすることで期待したい。
- ・ICTの教育は、教員にもタブレットが整備されて、授業の質の向上に期待したい。
- ・今、働き方改革というのが見直されていると思うが、どんなに良い提案があっても、先生方に余裕がないとうまくいかないのでは、こちらへの働きかけも日本一の教育として大事なことです。改革はいろいろしてきたが、先生方の事務的な作業のサポートをする教員以外の専門のスタッフを増やすことで、先生の作業負担が少なくなって、今提案されている施策についてもより成果が得られるのではないかと考えているので、検討いただきたい。

<委員>

- ・最初テスト段階だったものがこの3、4年の間に取組まれて、各学校に広がっているということが評価できる。
- ・英語教育はほそごう学園から広がり、英語教育に力を入れる時代になっているが、池田も率先して各学校に専科教員を配置して、さらに英語教育が浸透していくのが大変喜ばしい。
- ・幼児教育については、鉄は熱いうちに打てということで、早速通級教室を設置されたことも長い目でみると大変効果的なものになると思うので、評価したい。
- ・ICT教育は、当初石橋小学校で電子黒板が配備されて、一時的なものだと思ったが、各学校に広がって、今は当たり前のようになっている。また、さらに学校の先生方にもタブレットが整備されるということでどんどん進んでいると感じる。
- ・先ほどの働き方改革は、先生方全員にタブレットをお渡しになったことが、良い方向に向かったのか気を付けていただきたい。これは家に持って帰れるのか。自宅に持って帰って仕事量が増えないか。あと安全面、情報が漏れないか。また、それによって先生の負担が増えないか注意していただきたい。逆に、先生たちの負担が減ったのであれば喜ばしいこと。
- ・体力向上と音楽教育については、将来大人になっての居場所を決めるのに、いろんな職業があるので、学校の間には家庭では経験できないような楽器を知ったり、やはり体力があつてすべてのことが成り立つと思うので、力を入れていただきたいと思う。予算を投入していただいたすべてにおいて良い方向に向かっていると思う。図書館が起爆剤になって、池田市の駅前近辺が、これを機会にキラキラと輝くように期待している。

<委員>

- ・予算の方も積み増しいただき、結構な金額になっている。経費の内容を見ていると、リースとか毎年継続してランニングコストが発生する事業が多いので、この辺は今後考えていかないといけない。減らすことがなかなか難しい事業が多くなってきているので、今まで積み増ししてきていただいているが、今後どうしていくのか。そのために平成31年度は検証事業をしていただくわけだが、これは平成32年度の予算の検討に入るまでに結果を出していただかないと、今年1年掛かって検証しましたでは遅い。できれば来年4月以降の予算に反映出来るようにして欲しい。また評価をしていただくにあたっては、先ほどの説明であったが学力テストの数値を使うのは当然だと思うが、数値だけで評価できない事業もあるので、その辺りを丁寧に評価いただきたい。また、可能であれば、評価だけではなく改善点や提案もしていただければありがたい。それも踏まえて検証事業を進めてほしい。
- ・英語教育の推進では、2年にわたり予算増額をしていただき、専科教員の配置が小学校全校に広がった。たしかにオンラインスピーキングでも英会話の練習はできるようになってきているが、日本人は、日本語でもスピーチやプレゼン、発表等は苦手だと思うので、そういう面も伸ばして欲しい。
- ・体力の結果も平均に及んでいないところもあると聞いたので、何か対策はしないといけないと思うが、今回の事業の中身だけではなくて、ゲームをしたり、外は危ない、塾がある等で基礎的な運動量、外で体を動かす時間が減っていると思う。外で体を動かすということを促がすような取組も考えていけたらと思う。

<市長>

- ・委員の先生の話にもあったが、学校ごとの平均点等についても、教育委員の先生と教育委員会とで情報の共有はもう少し幅広くする必要がある。
- ・体力の向上でいうと、義務教育学校では、音楽等で金賞を取った等、教育委員会が受賞等を把握できるが、一般的なクラブチームや大学生等は市長部局で、例えば全国大会に出たら1万円の激励金をお出しし、ふくまるちゃんのメダルを一つお渡しし、3つ集めるとチキンラーメンセットをプレゼントするようにしていて、もう何人か出ている。昨日関西学院のアメリカンフットボールチームがきてくれましたが、6人池田市の子がいるし、例のMVPを取った子も池田です。池田にはワイルドボアーズという子どもたちのアメフトのクラブチームがあり、6人のうち4人がワイルドボアーズの出身。またU12の女子のサッカーチームでなでしこ大会に出た、北摂サッカークラブには池田市の子が2人いる。去年も優勝したので、これでメダル2つ持って帰ったことになる。クラブチームをどうするかというのは、教育委員会としては、中学校のクラブの編成がどうなるとか、難しいところもあるが実際頑張ってくれている子もたくさんいる。
- ・教育日本一事業の検証についてはきちっとしていくべきだと思っている。
- ・実は平成28年度は補正予算が当初予算の倍ついたので、空調・トイレが一気にこの補正予算の対象になって、さきほど言った補助金がつき、残りは全部借金だが、借金のうち3割、4割を交付税で返してくれるという、効率の良い起債発行ができたのでうまくいった。しかし、平成29年度はつかず、失敗したので、全国市長会でも平成30年度の補正予算をたくさんお願いして予算がついたが、1次補正は、空調・ブロック塀、2次補正はその他で、それが国土強靱化という名称であり、残念ながら給食センターは補正予算ではできないと決定がおりた。文部科学副大臣の浮島とも子先生にも、夏の暑いときに池田の今の給食センターをご覧いただき、大変今もご尽力をいただいているところ。平成31年度の当初予算で補助対象にと尽力いただいているが、ただ当初予算では補助が薄いので、緊急防災対策事業債に

して、炊き出しセンターにするのか、避難所にするのか、給食センターもまさかの時の助けになるとして、総務省の起債制度にどこまで乗れるのか検討している。これがさきほど言っていた、制度のすきまから暖かい心がわいてくることを期待している、とお手紙に書かせていただいたところ。以上、これまでに取り組んでいることをまとめてお話させていただいた。

<教育長>

- ・総合教育会議に先立って、2月の教育委員会定例会で承認をいただいた次年度の教育方針と主要施策については、2月25日に本会議でも発表するが、日本一予算の3本柱は英語教育推進、幼児教育サポート、ICT教育推進としている。またこれも特色であるが、本市のすべての学校園で公開授業研究会を実施している。その研究会でも電子黒板を活用した授業の公開がされており、ICTを駆使した授業改善等、益々今後も推進していく必要がある。
- ・英語専科教員の全校配置するが、これからが大事である。専科教員が充分機能できるように、連絡会、交流会を通して各学校の英語教育がトータルとして向上していくように機能化に向けた努力が必要だと思う。
- ・日本一予算でこれまでも支援をいただいております事業は、今後もしっかりと進めていくという点で非常に責任を感じているところ。これまでの事業、それぞれの取組をしっかりと検証会議で、シビアに検証、点検していく。
- ・市長から提案のあった給食センターに関わる中学生へのアンケートについては、どのような意見・要望が出てくるのか大変楽しみにしている。中学生の声をしっかりと受け止めて、充実に向けて努力する。

<市長>

- ・委員の先生からも先ほどお話があったが、検証についてはできるだけ速やかにしていただいて、平成32年度の予算に反映ができるようにしてほしい。毎年発生する事業、費用については、英語専科教員の給料、はばたき塾の学習塾トライへの支払い等があり、平成27年度に比べて2億2千万円は毎年要るお金となるが、その中でスクラップアンドビルドで見直していただく。また、平成32年度にどれだけ積むのかということも含めて検討、見直しが必要。他に何もなければ、これで総合教育会議を終わらせていただく。

3. 閉会